

# 大正ロマンを感じるまち行田(建物と足袋蔵)

忍の城下町として知られる行田市は、江戸時代から足袋の製造が行われていたが、明治時代に入ると規模が拡大し、足袋産業へと発展していった。最盛期には全国の足袋生産量の8割を占めていたという。今も行田市には足袋製造と関連の深い建物が多く残っていて、古臭い街並みと共に往時を偲ぶことができる。ただ、城下町特有のいりくんだ道路配置と短冊型の地割のために、表通りに面した建物は少なく、多くの建物は裏通りに立地するので、人目に付きにくいのが残念である。約100基存在するという足袋蔵はさらに奥の路地裏に点在する。行田市の中心部を国道125号線が東西に横断しているが、市役所付近から大長寺にかけての区間には、看板建築の店舗も数棟存在している。今、行田のまちを歩いてみると当時の建物が多く残っている。次は、日本遺産として登録された足袋蔵、だけでなく、行田の洋風漂う建物群です。



- ① 保泉蔵」明治後期と大正5年の土蔵、
- ②「足袋蔵ギャラリー“門”・クチキ建築設計事務所」大正5年の足袋蔵、③「イサミスクール工場」大正6年の木造洋風住宅と大正7年の



旧事務所、④「時田



蔵」大正の足袋蔵、⑤「田代蔵」大正の住居と土



蔵(足袋蔵)、⑥「長井写真館」大正11年の木造洋館、⑦「牧野本店(足袋とくらしの博物館)」大正11年の木造洋風工場と大正13年頃の店蔵、⑧「忍町信用金庫」大正12年元来は忍町信用組合(銀行)の店舗、



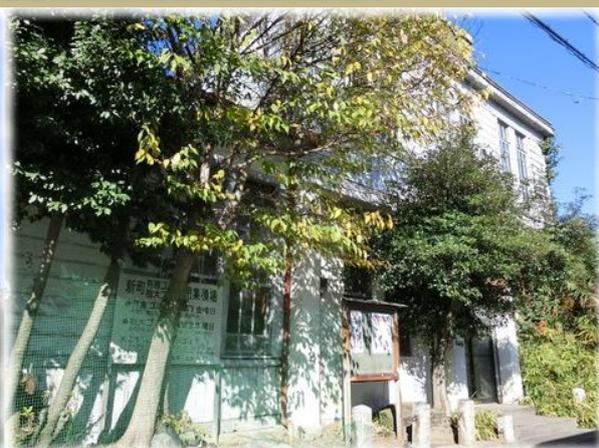
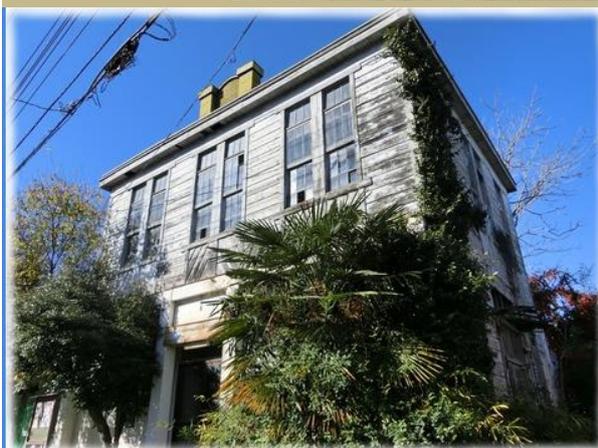
⑨「大澤蔵(大澤家住宅旧文庫蔵)」大正15年の住宅・土蔵(レンガ蔵)。

中でも、新町商店街の奥の路地裏に点在する「旧忍町信用組合店舗」と「長井写真館」は大正10~11年に建てられた木造洋風店舗(洋館)があります。建設当時は、まさに大正ロマンの時代。竹久夢二を代表とする独特な美人画や、レトロな商業ポスターなど、ノスタルジックな芸術作品。そして、建築分野においても、和洋それぞれの特色が融合した時代でした。この二の洋館はモダンで洒落たデザインの大正時代の雰囲気感を良く残す貴重な近代化遺産です。「旧忍町信用組合店舗」はルネッサンス風の木造二階建てで屋根と壁面の配色がなかなか潇洒だ。屋根にはドーマー窓が設け

られている。そして「長井写真館」は裏側は傾斜のきつい屋根になっていて、大きな窓から注ぐ自然光を使ったスタジオ。いつまでも、残しておきたい建物です。

# GYODA TATEMONO

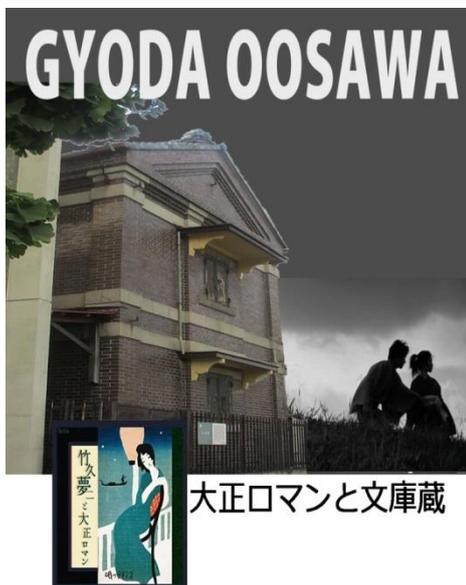
大正ロマンを感じるまち行田(建物と足袋蔵)



しかしながら、この二つの建物は劣化が著しく、「旧忍町信用組合店舗」は取り壊され、今年3月、同市役所近くの水城公園内に移築された。大正時代の行田の足袋産業の面影がまた一つ消えた。日本遺産の認定外の「長井写真館」には、このような憂き目にはなつて欲しくない。



この建物、大正時代の面影は残っていますか？



大正ロマンを感じる「大澤蔵(大澤家住宅旧文庫蔵)」大正15年のレンガ蔵。こんな面影が。



## GYODA TATEMONO





大正ロマンを感じるまち行田(建物と足袋蔵)

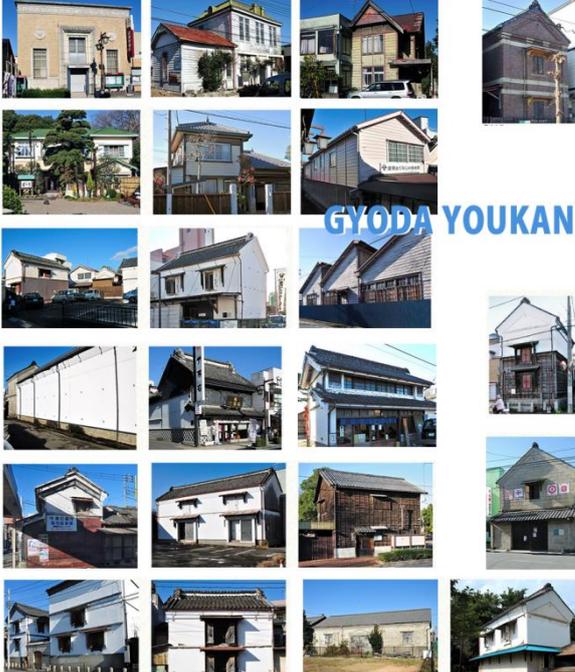








## GYODA YUKAN



行田の洋館

<http://www.geocities.jp/fukadasoft/bangai5/youkan/index7a.html>

埼玉県行田市のモダン建築探訪記録

[http://blog.livedoor.jp/kuroneko\\_studio/archives/51845607.html](http://blog.livedoor.jp/kuroneko_studio/archives/51845607.html)

**大正の洋館** カフェに行田・水城公園

<https://mainichi.jp/articles/20180922/ddl/k11/040/216000c>

ノスタルジックなモダン建築物を訪ねてみよう。

彩々亭（旧荒井八郎商店）、大木家石蔵（孝子蔵）、小川源右衛門蔵（カネマル酒店石蔵）、  
牧野本店の旧店舗蔵と旧木造洋風工場（足袋とくらしの博物館）、イサミスクール工場（鈴木勝次郎商店）

[http://www.geocities.jp/kuroneko\\_studio/gyou\\_gyoda2.htm](http://www.geocities.jp/kuroneko_studio/gyou_gyoda2.htm)

[http://blog.livedoor.jp/sava\\_avas-tatemono/archives/272868.html](http://blog.livedoor.jp/sava_avas-tatemono/archives/272868.html)

たてめも

一番魅力的だと思った建物。建物の形が正方形でないところが面白いですね。行田市は裏道が面白いです。結構古い建物も残っていて、宝探しのような気分が味わえます。と言っても、蔵が多くて、文化財に指定されていない蔵でも興味深いものが沢山あります。空き家らしきもの結構あり、いずれは消えてしまう建物なのかもしれないと思いました。古い木造住宅の魅力って、直線が曲線になって行く美しさなのかも。まるでフリーハンドで描いた絵のようなガタガタ感です。

<http://tatemono.art-saitama.jp/archives/2319>

埼玉モダンたてもの

一口に蔵といっても、酒蔵、店蔵、お茶蔵に穀蔵、絹の蔵…商売の数だけ蔵があります。

行田では「足袋蔵」の再活用が市民の手ですすめられ、様々な素材やデザインの蔵に出会えます。

minicolumn

ものづくり大学准教授 横山晋一

行田の足袋づくり起源は詳らかではありませんが、18世紀前半には数件存在していたようです。明治維新後、軍需品大量受注によって行田の足袋産業は躍進しますが、その遺構となる旧足袋蔵が行田市駅中心に点在しています。蔵は間口5間、奥行3間の平入り・切妻屋根が多く、弘化3年（1846年）の大火の影響もあつてか、冬期の北西風に対応した二面のみを土壁とする「半蔵造り」が存在するのも、建築的特徴と言えるでしょう。

<https://hash-casa.com/2017/06/22/cabanondelecorbusiermonozukuri/>